

# 土曜 ライフ・楽しむ

## うまい話なし 信頼ほどほどに



生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



が情けないのです。

先日、オーナー商法の関係者ら逮捕との報道がありました。被害者は高齢の方が多くなけなしの資産をつぎ込んだのでしよう。首謀者は、自身も高齢でありながら心が痛まなかったのでしょうか。

私は情報誌で「怒るな、転ぶな、風邪ひくな」というシニアの心得とともに、振り込め詐欺や悪徳商法に対し、繰り返し「たまされなさい」と注意喚起してきました。他に策はないと思っていますが、被害が減らず残念であります。敵はより巧妙な手段でつけこんできます。自分だけは大丈夫、という油断が被害を生んだのかもしれない。



そんな私ですが、おそまつながら、似た出来事——仕事上で取引業者に、うまくやられてしまいました。しかるべき人の紹介で付き合い始めた担当者へ、おとなしそうで対応も丁寧。当初のいくつかの仕事に満足し、「信用」するようになりました。困りごとを相談したり、彼から依頼を受けたりと少しずつ取引の範囲が広がりました。この時点で「信頼」感が生まれ、「彼が言うなら確かだろう」と、他の情報を取る手間を惜しみ、深く掘り下げずに進めてしまったのです。

ある事件が起き、近しい専門家や法律家の友人らに相談したところ、「よく吟味せず

にハンコを押したお前が悪い。問題にしても良い結果は得られないだろう」との見解です。他の取引内容を見せたところ、「こっちの方が問題、うまくやられている」と言われ驚きました。ノルマに追われての所業かもしれないが、彼はのらりくらりと口を濁し、そのとたん、「異動になった」と、これまでの経緯も分からない別の若い担当者に替わりました。

決めたのは私、詰めが甘かった自分が悪いので、高い授業料もあきらめるしかありません。もちろん相手には腹が立ちます。しかしそれ以上に、不覚にもたまされた自分



そこで冒頭の悪徳商法の話に戻ります。被害者は老後の不安など様々な理由から少しでも手持ち資金を増やしたいと思ったのでしよう。彼らの手口はまず著名人の名を出すなどして信用させることから始まります。優しい態度、口調で取り入り、信頼させたらあとは思うまま。これに対抗するには、身近にいる本当に信じるのできる友人や知人に相談することです。

私も何とか「倍返し」したいですが、敵が目の前から消えてしまった今はいかんともしがたく、悔しくてなりません。疑うばかりではギスギスして嫌ですが、信頼もほどほどにし、「うまい話はない」と心に刻むことが大切です。